

報道関係者各位  
2014年11月19日

No. 2014-079-P1

門外不出の「松島図屏風」ほか日米所蔵作品による夢の競演  
「俵屋宗達」展 フリーア/サックラー美術館(米国ワシントン DC)で開催!



俵屋宗達(松島図屏風) (部分) 江戸時代 17世紀 紙本着色 6曲1双  
フリーア美術館  
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, DC: Gift of  
Charles Lang Freer, F1906.231-232



俵屋宗達(扇面散屏風) (部分) 江戸時代 17世紀 紙本着色 6曲1隻  
フリーア美術館  
Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, DC: Gift of  
Charles Lang Freer, F1900.24

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、スミソニアン研究機構フリーア/サックラー美術館(米国ワシントンDC)との共催で、江戸時代初期に活躍した俵屋宗達の作品を中心とする展覧会「俵屋宗達」展(仮称)を開催します。

チャールズ・フリーアが収集した俵屋宗達の代表作として著名な「松島図屏風」と「雲龍図屏風」等貴重なコレクションは、館外への貸出しが禁じられているため、他の作品と同時に展示される機会がこれまで一度もありませんでした。今回は、これまでの琳派展、宗達展にはあり得なかったまさに夢の企画として、米国内の主要な宗達派作品と日本で厳選した作品をフリーア/サックラー美術館に集め、一堂に会して展示するものです。

宗達の芸術は、尾形光琳や、酒井抱一らのいわゆる琳派の系譜に属する画家たちが受け継いだ装飾的絵画のルーツであると同時に、自由奔放で個性的な絵画表現が大きな魅力です。そのため、海外のコレクターが作品の魅力に引き付けられ、その結果として、フリーア/サックラー美術館を始めとした米国主要な美術館に作品が収蔵されることになりました。本展覧会では、この装飾的芸術の代表とされる宗達及びその周辺画家の作品約50点と同時に、大正時代以降、宗達に影響を受けた近代絵画作品約15点をあわせて展示することで、宗達芸術の現代への繋がりを明らかにするものです。

また本展は、2010年11月に発表されたファクト・シート「日米同盟深化のための日米交流強化」に基づく5カ年事業の一環として開催されます。なお、2015年2月に日米両国のキュレーターによる記者発表を、3月にはシンポジウムを東京で開催予定です。詳細は、当基金のウェブサイト(<http://www.jpff.go.jp/j/index.html>)にて追ってご案内します。

- 【会 期】: 2015年10月24日(土)～2016年1月31日(日)
- 【会 場】: アーサー・M・サックラー美術館、ワシントンDC
- 【主 催】: 独立行政法人国際交流基金、スミソニアン研究機構フリーア/サックラー美術館
- 【特 別 協 力】: 国立大学法人東京藝術大学大学美術館
- 【協 力】: 全日本空輸株式会社
- 【キュレーター】: 古田亮(東京藝術大学大学美術館准教授)、ジェームス・ユラック(フリーア/サックラー美術館シニア・キュレーター)
- 【学 術 委 員 会】: 奥平俊六(大阪大学大学院教授)、仲町啓子(実践女子大学教授)、ユキオ・リピット(ハーバード大学教授)、フェリス・フィッシャー(フィラデルフィア美術館シニア・キュレーター)

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 文化事業部米州チーム(担当:岡部、篠原、山田)

Tel: 03-5369-6061/Fax: 03-5369-6038 /E-mail: [Q\\_americas@jpf.go.jp](mailto:Q_americas@jpf.go.jp)

●広報用画像・取材に関するお問い合わせ: 平昌子(TAIRAMASAKO PRESS OFFICE)

Tel: 090-1149-1111 /Fax: 03-3468-8367 /E-mail: [info@tmpress.jp](mailto:info@tmpress.jp)



前田青邨《芥子園屏風》  
昭和時代 1930年 紙本着色 6曲1双  
光ミュージアム ©Y.MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2014 E1289

## 宗達 日本美術史上最も有名な謎の画家

《風神雷神図屏風》をはじめ《蓮池水禽図》《源氏物語関屋瀟標図屏風》などの国宝と、多数の重要文化財作品の作者として知られている俵屋宗達。17世紀前半に京都で活躍した宗達は、日本美術史にとって最も重要な画家のひとりですが、意外なことにその生涯についてはほとんど何も分かっていません。まさに謎の画家と言ってもよいでしょう。

宗達は、京都の上層町衆や公家、寺社ともつながりのあった本阿弥光悦(1558-1637)や角倉素庵(1571-1632)ら文化人たちとの交流を基盤として「俵屋」という工房を発展させたと考えられています。初期には扇絵や料紙装飾などを手がけますが、やがて屏風や障壁画といった大作の制作も請け負うようになったようです。

### フリーアと宗達

その宗達の最高傑作が米国、ワシントン DC にあるフリーア美術館に所蔵されています。《松島図屏風》と《雲龍図屏風》です。日本にあれば間違いなく国宝指定を受けている作品です。チャールズ・ラング・フリーア(1854-1919)は、鉄道車両会社で成功をおさめ、40代半ばで引退した後は、美術品の収集に精力を傾けました。数回にわたって日本を訪れたフリーアは、近世を中心とする日本美術を収集し、その質と量はボストン美術館のコレクションに勝るとも劣らないものとなりました。宗達の2点は、その代表的な作品です。しかし、フリーアはコレクションを米国連邦政府に寄贈するにあたって、その条件として館外への貸し出しを一切禁じたため、これらの名品を見るためにはフリーア美術館に行かなければならないのです。そういった意味でも今回の展覧会はその他の宗達の作品、その後に影響をうけた画家達の作品と共に宗達の魅力に迫る展覧会です。

### 20世紀の宗達

宗達に私淑した尾形光琳、光琳に私淑した酒井抱一らが、今日では「琳派」の系譜として位置づけられていますが、そのような見方が広まるのは明治時代後期であり、意外なことに、宗達が一般に知られるようになったのは大正時代のことでした。フリーアが2点の宗達作品を購入したのはそれ以前だったのですが、そのことは宗達芸術に対するフリーアの先見の明を示すものと言ってよいでしょう。

大正時代以降、すなわち20世紀には多くの日本画家たちが宗達の個性豊かな表現に魅せられていきました。今村紫紅、小林古徑、平福百穂、福田平八郎、山口蓬春、前田青邨、小倉遊亀らです。彼らの表現は単純に宗達を真似るということではなく、自己の表現を通して現代に宗達を蘇らせる試みだったと言えます。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ：文化事業部米州チーム（担当：岡部、篠原、山田）

Tel: 03-5369-6061 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: Q\_americas@jpf.go.jp

●広報用画像・取材に関するお問い合わせ：平昌子（TAIRAMASAKO PRESS OFFICE）

Tel: 090-1149-1111 / Fax: 03-3468-8367 / E-mail: info@tmpress.jp